

平成 25 年度実施「いきいき協働事業」活動状況報告書

1 事業名	地域の見守り実態調査及び啓発事業	
2 団体名	特定非営利活動法人 ふれあいアカデミー	
3 担当課名	健康福祉部 高齢者福祉課	
4 事業実施期間	平成 25 年 4 月 7 日から平成 26 年 3 月 31 日まで	
5 実施場所	小平市中央公民館ほか	
6 事業の目的、目標	高齢者の孤立化について、小平市内の実態を、自治会、地域包括支援センター等の関係者や機関を対象に、主にアンケートにより調査を行う。その上で、孤立化を招かない有効な方法を検討し、報告書にまとめるとともに、地域における見守りについての意識を高めるための啓発活動を行うことを目的とする。	
7 事業効果が及ぶ対象者	市民	
8 役割分担	団体の役割	行政の役割
合意した役割分担	アンケート作成、報告書作成、市民フォーラムの企画・運営	広報等の協力、会場確保、経費の負担、アンケート調査への協力、報告書の資料提供・内容確認
役割の実施状況	アンケート作成、報告書作成、市民フォーラムの企画・運営	広報等の協力、会場確保、経費の負担、アンケート調査への協力、報告書の資料提供・内容確認
9 事業内容	<p>今回の「地域の見守り実態調査及び啓発事業」は、高齢者の「地域の見守り」に関する実態調査と地域包括支援センター・中央センターのヒアリング調査及び先進的自治体の事例調査による実態把握と対応策、市民に対する「啓発と市民意見の場」である「市民フォーラム」を合わせた健康福祉部・高齢者福祉課との協働事業である。</p> <p>(1)地域の見守りに関する自治会・町内会アンケート調査の実施 ①調査の目的：小平市内の「孤立化」の実情と対応状況 ②調査の対象：小平市に登録され活動中の 377 団体 ③データの集計・分析・まとめ：NPO 法人ふれあいアカデミー</p> <p>(2)地域包括センター・中央センターに対するヒアリング調査 ①ヒアリングの内容は市・担当課と協議し事前に提示。 ②ヒアリング調査は関係者を交え、代表者の質問と関係者参加の質疑。</p> <p>(2)啓発事業「市民フォーラム」の実施 「市民フォーラム」は市民に対する啓発を目的に“地域で「孤立化」しないまちづくりを目指して”のテーマで講演とパネルディスカッションの 2 部構成で企画。講師は「孤立死」ゼロを実現した立川市大山団地自治会長佐藤良子さん、パネルディスカッション・パネラーには地域で活躍中の関係団体代表が参加し、市民を含めたディスカッションを企画。</p>	

10 事業成果について	
<p>(1) 目標の達成状況について</p>	<p>(1) 「高齢者の「孤独化防止」に関するアンケート調査と『報告書』作成</p> <p>①アンケート調査の依頼 小平市高齢者福祉課とNPO ふれあいアカデミーで質問項目について協議を重ね、8月6日対象の自治会・町内会長宛てにアンケート用紙を郵送した。</p> <p>②調査対象の自治会・町内会の回答状況 小平市に登録され活動中の377団体自治会・町内会からアンケートの回答は235通(回答率62,3%)、市担当課で受理した。</p> <p>③データの集計・分析・まとめはNPO ふれあいアカデミーが担当し、地域包括支援センター・中央センターのヒアリング、先進的自治会の事例収集等を含め、2月上旬に『調査報告書』を作成した。</p> <p>(2) 「市民フォーラム」地域で「孤立化」しないまちづくりを目指して</p> <p>①実施日時 平成26年2月22日(土) 13,30~16,30</p> <p>②会場 小平市中央公民館ホール ③内容 講演とパネルディスカッション(講師 立川市大山団地自治会長 佐藤良子さん、パネラー 白梅学園大学准教授森山千賀子さん、地域包括支援センター中央センター長 藤原淳さん、大沼町北自治会長 田中幸也さん)</p> <p>④参加者 男性47名(小平市民40名)、女性51名(小平市民45名) 参加者計98名(小平市民85名、86,7%)</p> <p>⑤参加者アンケートによる「フォーラム」の評価 質問3「孤立化防止」の参考になりましたか。(回答者34名) 大変参考になった29名、やや参考になった4名、計33名(97%) 全体として好評であったと評価している。</p>
<p>(2) 解決される地域の課題について ※計画時に設定した課題が、どの程度解決できたかを記載してください。</p>	<p>①自治会長アンケートの質問5に「高齢者への見守り活動の状況と課題」という意見の自由記述がある。各自治会・町内会とも「高齢者の見守り活動」に対する関心は高く、活動の方法も内容も様々であるが一歩踏み込めない課題に「プライバシー」に関連する問題を挙げた人が多い。問題の解決には個人情報保護法との関係もあり、公共機関の対応を望む声も多く、避けて通れない課題である。</p> <p>②アンケート結果から是非とも挙げなければならない課題に「情報の伝達方法」がある。例えば、小平市「見守り系サービス説明カード」の評価は高いが、40%の自治会長から「知らなかった」の回答であった。また、「高齢者の異常時の連絡先」の質問に対しては70%近い自治会長は無回答であり、回答された自治会も内容はバラバラである。自治会・町内会と行政との情報伝達方法も、今後の大きな課題である。</p>

<p>(3) 協働事業の受益者について ※計画時に設定した対象者が、満足が得られたか。どう変化したか記載してください。</p>	<p>「市民フォーラム」参加者アンケート（質問6 自由記入）の主な感想や意見は次の通りである。</p> <p>男性・60 歳代 ☆目から「うろこ」の事が多くとても感心させられた。地域全体で協力しないと（まちづくり）は出来ない。</p> <p>☆大山団地自治会が「孤独死」をなくした経過を聞かせて頂き、自治会長のエネルギーに感激しました。</p> <p>☆大山団地自治会長の実行力に感服しました。又、諸々の内容も参考になりました。</p> <p>男性・70 歳代 ☆今回の雪で連絡の取れなくなった人がいた。自治会活動で、地域で見守る様にしたい。声かけ運動を進めたい。</p> <p>☆自治会組織率 100%を目指したい。</p> <p>女性・50 歳代 ☆大山団地自治会長の話を聞く場を多く作って頂く事が、個人または自治会の意識向上に繋がって行くと思います。</p> <p>女性・60 歳代 ☆サロンなどの組織を作り、見守りネットワークを構築したい。</p> <p>女性・70 歳代 ☆大山団地の事例、力強く、沢山参考になった。</p> <p>☆佐藤良子会長のお話、本当に感心しました。素晴らしいですネ。</p> <p>☆大変勉強になりました。如何に自治会が大切であるか分かりました。</p>
<p>(4) 協働による相乗効果について ※協働したことにより、単独で事業を行うよりも、成果があったか記載してください。</p>	<p>協働事業で進めたことで調査作業も順調に進み、活動しやすい環境が出来た。市役所の関係者をはじめ、協力を依頼した市民団体等からも信頼と積極的な協力が得られた。</p> <p>協働事業を進める上で市担当課と「打ち合わせ」を重ねる毎に、行政の置かれている立場や考え方も理解することができた。また、関係資料なども用意して頂き作業を進める上で大変役立ち、予定通り作業を進めることができた。今後の課題についても共有できたものと思っている。</p>
<p>11 今後の事業展開について</p>	<p>今回の協働事業である「地域の見守り実態調査及び啓発事業」を一過性の協働事業として終わることなく、今後もフォローのかたちで「高齢化社会の課題」として繋げて行くことが出来れば更に効果は高まると思う。</p> <p>また『高齢者の地域における「孤立化の防止」に関する調査報告書』も協働事業の単なる「報告書」に終わることなく活かせるものと思う。</p>